令和4年度 施策評価シート

施策の大綱	4. 子育てと子どもの成長を支える環境の充実	評価担当者
基本施策	（1）子どもたちの豊かな学びと成長を支える環境の充実	教育部長　亀山　隆
目指す姿	子どもたちが、豊かな学びのもと、未来を創るための力を身に付けています。	
関連する分野別計画	亀山市学校教育ビジョン	

■SDGs

基本施策に関連するSDGsのゴール	
SDGs推進の考察	個の学び支援事業や学習支援事業は「誰も取り残さない学びの保証」に直結する取り組みであり、均質な学びの提供が公正な社会構築の起点になるものである。また、家庭・地域と連携した地域における子どもの居場所づくりや学校運営協議会の展開は「地域学校協働活動」につながるものであり、地域全体が主体者となる取り組みをめざしているものである。

■関連する主な事業　（単位：千円）

施策の方向	事業名	上段：予算額 下段：決算額	実績・成果等
①	**放課後子ども教室推進事業**	12,884 10,250	感染症対策を講じた上で、全小学校で放課後子ども教室を実施することができた。地域で子どもの体験学習や地域の大人の交流活動を通じて、地域の中で子どもが育まれる居場所をつくることができた。
②	**学校施設長寿命化計画策定事業**	1,468 1,468	令和4年10月に業務委託を締結し、現地調査を含む対象施設の実態把握を行い、建物情報一覧表に取りまとめた。
②	**中学校デリバリー給食実施事業**	43,700 42,088	年間178回の必要な回数の給食を実施するとともに、生徒対象のアンケートと献立内容の改善により、生徒自らの昼食への関心を高めつつ栄養バランスの考えられた昼食を提供することができた。
②	**中学校全員喫食制給食実施事業**	0 0	給食調理施設の建設候補地、調理能力、施設規模、事業手法について、教育委員会において9回にわたり検討を重ね、課題を整理した。
③	**学力向上推進事業**	1,630 1,266	教職員の授業力向上に向けた研修会を実施するとともに、運動部活動支援員の登録や共通テスト等の結果分析を通じて、教職員の指導力の向上と授業の改善につなげることができた。
③	**学校図書館支援事業**	14,500 13,530	図書館活用アドバイザーの配置により、児童生徒の読書習慣の確立や読書の質の向上につながる取組ができた。園や小中学校で、親子読書リレーや読書チャレンジの取組も実施した。
③	**GIGAスクール構想推進事業**	54,700 53,023	「令和の日本型学校教育」が目指す「個別最適な学び」と「協同的な学び」の実現に向け、GIGAスクール構想推進のための環境整備と児童生徒の情報活用能力を育成した。
③	**英語教育推進事業**	31,769 31,104	ALTの配置により、児童生徒にネイティブな英語に触れる機会を設定することができた。英語キャンプを実施した。英語試験や共通テスト等で結果を分析し、授業改善を図った。
⑤	**個の学び支援事業（小学校）**	73,900 72,161	小学校において、介助員、看護師および生活支援員を継続配置し、児童の生活面・活動面及び学習面において必要な支援を行うことができた。
⑤	**個の学び支援事業（中学校）**	17,600 15,753	中学校において、介助員及び学習生活相談員を適切に配置し、特別な支援が必要な生徒に丁寧に対応することができた。
⑤	**生活困窮者自立支援事業（学習支援事業）**	3,200 2,914	定期的な学習教室の開催や不定期のテスト対策教室の開催等により、児童生徒の学習環境が整い学習習慣の確立と学力向上につなげた。
⑤	**少人数教育推進事業**	22,400 20,900	少人数教育推進教員の配置により、習熟度別やティーム・ティーチング、個別支援等児童生徒の状況に応じた指導の充実を図ることができた。
⑤	**校務支援システム事業**	6,780 6,149	市内全小中学校に校務支援システム導入が完了し、試行を開始した。段階的な教職員研修を行い、令和5年度からの運用に向けて準備を進めることができた。
	※標準事業は別紙参照		

太字：主要事業

■成果指標

	指標	単位	現状値		実績値 R4	R5	R6	R7	目標値
1	コミュニティ・スクールだより等を作成し、地域への情報発信を年間3回以上行っている学校の数	校	8	R2	11				14
2	学校評価アンケートにおける授業理解度（小学校）	%	90.0	R3	90.0				92.0
3	学校評価アンケートにおける授業理解度（中学校）	%	85.8	R3	87.2				89.0
4	「かめやまお茶の間10選（実践）」アンケートにおける取り組んだと回答した保護者割合	%	52.0	R2	66.0				70.0
5	学校評価アンケートにおける学校満足度（小学校）	%	93.4	R3	91.1				95.0
6	学校評価アンケートにおける学校満足度（中学校）	%	91.2	R3	94.1				95.0
7	「亀山っ子」市民宣言についてのアンケートにおける目指す子ども像について実感があると回答した割合	%	24.4	R2	28.9				30.0
8									

■市民アンケート調査

	項目		現状値 [R2]	1次 [R5]	2次 [R6]	市民アンケートの考察
1	小中学校の施設や設備が整っている	重要度	1.40			― 令和5年度の市民アンケートの結果を踏まえて、次年度に考察します。
		満足度	0.43			
2	学校教育の内容や取組が充実している	重要度	1.42			
		満足度	0.26			
3	青少年を見守り応援する活動が行われている	重要度	1.34			
		満足度	0.52			
4		重要度				
		満足度				

■施策推進［施策の方向］

施策の方向	施策推進に関する考察
① 学びを支える温かさあふれる学校づくり	学校運営協議会を核として、地域の特色を生かした学校づくりを進めた。今後も地域や糧との連携の下、子どもが安心して学べる環境を整えていく。
② 学びの環境の充実	学校施設長寿命化計画の策定に向け、施設の実態調査により現況把握を行うとともに、中学校全員喫食制給食の実施に係る基本計画の策定に向け検討を重ねた。
③ 希望をもって新しい時代に活躍できる子どもの育成	児童生徒一人ひとりが学ぶ楽しさや、わかる喜びを実感できる授業改善を図った。今後も、体験学習の充実や情報機器等を使うことで、子どもの資質能力の向上を図る。
④ 家庭・地域の教育力の向上	「かめやまお茶の間10選（実践）」の取組を行い、家庭生活を通じて基本的な生活習慣を身に付けられるよう意識啓発を図った。今後も継続して意識啓発を図る。
⑤ 一人ひとりの学びを支えるきめ細かな教育の推進	一人ひとりの子どもの特性や事情を捉え、それぞれの学びの機会の確保を行った。今後も一人ひとりの児童生徒の悩み事情等に配慮したきめ細やかな指導を行う。
⑥ 青少年の健全育成と青少年活動の促進	地域・福祉・教育の連携による青少年の自立支援や見守り体制の強化に取り組んだ。今後も関係機関等との連携を強化し、青少年の自立支援や見守り体制の強化を図る。
⑦	

総合評価

学びを支える温かさあふれる学校づくりでは、地域における子どもの育み意識が高いという亀山市のこれまでの積み上げを生かした、地域における居場所づくりや地域と共にある学校づくり、特色ある学校づくりも進められたと考える。学びの環境の充実では、学校施設の長寿命化計画の策定に着手し、中・長期的な展望での学校施設改修に向けた取り組みが進んだが、中学校における全員喫食制給食の実施に向けた基本計画について、財源を含めた様々な課題整理が必要であったことから年度内での策定ができなかった。希望をもって新しい時代に活躍できる子どもの育成では、一人一台端末の整備が完了した中で、学びの場においてどのように生かしていくかの実践的な年度として、各校が工夫して個別最適な学びの展開を進めたことが、授業理解度の向上につながっていると認識している。一方で学力の向上については、一定の底上げは図れたものの学年や教科ごとの課題が顕在化しており、より一層子どもの力を引き出す工夫が必要である。家庭・地域の教育力の向上では、「かめやまお茶の間10選（実践）」の展開が、子どもの育みを取り巻く環境に好影響を与えたと考えられる。一人ひとりの学びを支えるきめ細かな教育の推進では、校務支援システムの導入や外国籍児童生徒への初期対応学級の開始など、多様な教育課題に直結する取り組みが進められ、教職員の負担軽減や誰ひとり取り残さない学びの保証など、今後につなげることができる起点となっている。一方で、不登校児童生徒数はこれまでの最多となっている。コロナ禍を経過して学校へ行くことに対しての意識変容があることを踏まえてもこの状況を看過できない課題として再認識している。青少年の健全育成と青少年活動の促進は、市民団体などの協力を得ながら、体験活動の場の復活を進めることができた。

B

まずまず進んだ

今後の展開方針

不登校児童生徒への対応を含め、児童生徒と保護者、教職員相互の顔が見える関係性、地域と学校との連携を大切にしながら、子どもの居場所を確保し、就学前児童の保護者も含めより一層のきめ細やかな学びの保証を進めていく必要がある。また、学びの環境づくりとして校務支援システムの実効的運用を進めるとともに、部活動の地域移行など教職員が児童生徒に向き合う時間の創出を図って、「チーム亀山」で子どもの力を伸ばし取り組みに注力していく。喫緊の課題である中学校における全員喫食制給食の実現に向けて中長期的な展望も見据えながら、その具体についてを基本計画として策定していく。学びの環境整備については長寿命化計画に基づいて個別の維持管理計画を検討していく。

■関連する主な事業　（単位：千円）

施策の方向	事業名	上段：予算額 下段：決算額	実績・成果等
①	特色ある学校づくり事業（小学校費）	3,990 3,933	学校運営協議会を中心に地域や学校ならではの創意工夫を生かした特色ある学校づくりを推進した。ゲストティーチャーを招いて体験学習や学力向上等多岐に渡る取組を進められた。
①	特色ある学校づくり事業（中学校費）	750 746	学校運営協議会を中心に地域や学校ならではの創意工夫を生かした特色ある学校づくりを推進した。ゲストティーチャーを招いて体験学習や学力向上等多岐に渡る取組を進められた。
①	コミュニティスクール推進事業	1,060 810	コロナ禍で地域住民等との大規模な交流活動や行事は実施できなかったが、定期的に協議会を開催し、たよりを発行することで、活動内容も周知することができた。
②	施設整備費（小学校費）	5,300 5,278	亀山南小学校給食室のトイレ改修や白川小学校中土間の放送設備改修等、予定していた工事を執行し、学校生活環境の向上を図った。
②	施設整備費（中学校費）	407 407	中部中学校において特別支援教室設置に伴う間仕切設置工事を執行し、学校生活環境の向上を図った。
②	施設整備費（幼稚園費）	1,859 1,859	トイレドライ化工事（井田川幼稚園）、フェンス取替工事（みずほ台幼稚園）等、公立幼稚園の施設整備を実施することで、教育環境の向上を図ることができた。
②	地場農畜産物利用推進事業	290 238	市内・県内産の食材を多用した「かめやまっ子給食」を22回、給食調理員への学校給食研修会を2回実施し、地産地消の推進と安心・安全な学校給食の充実を図ることができた。
③	体育・文化活動支援事業（小学校費）	1,549 1,455	亀山市文化会館と連携し専門家を招聘し合唱指導の機会や様々な文化公演を行った。また、各園・各校に専門性のある外部講師を派遣し、幼児や児童の体力向上につなげた。
③	体育・文化活動支援事業（中学校費）	292 254	亀山市文化会館と連携し、各校への文化芸術活動の機会を設定することができた。専門家を招聘し、合唱指導の機会を設けることができた。
③	中学校体験活動支援事業	332 299	新型コロナウイルス感染症の感染予防のため、就労体験は3中学校、1中学校のみ実施できた。岡山県高梁中学校との交流も感染予防のため、オンラインを通じて行った。
③	幼児教育推進事業	1,870 1,591	保幼認小間の切れ目のない教育を目指し、教職員が連携・情報共有することで、きめ細やかな支援体制を整えることができた。各園の若年職員等の指導のための園訪問や研修会を行った。
③	教職員研修事業	1,430 1,010	基本研修を11回、授業力向上研修を11回、教育課題別研修を13回開催した。各校への外部講師や市教推各研究部の講師を計画的に派遣し、教職員の主体的な研修を支援した。
③	道徳・人権教育推進事業	490 450	差別事象の把握や人権・道徳に関わる各校への助言等従来の取組に加え、亀山市人権協の組織体制の確立やコロナ禍等の社会情勢に対応した取組を行った。
④	子育て学習展開事業	980 548	保育園等で保護者対象の家庭教育出前講座では5園123名参加、また小中学校では、家庭・地域の教育力事業として、家庭での学習に関する指導・啓発に関する講演を実施した。
⑤	適応指導教室事業	9,970 9,828	適応指導教室で児童生徒と保護者への相談を行った。教職員のスキル向上のため、研修会を開催した。子どもの居場所づくりのために「かめっ子サポート」に委託し体制強化を図った。
⑤	生徒指導充実事業	1,780 1,657	学校からの要請により、指導主事やスクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカーを学校に派遣し、児童生徒の心のケアや関係機関との連携を進めた。
⑤	障がい児支援事業	14,008 12,540	公立幼稚園に在籍する支援が必要な園児に対し、介助員等の職員を加配することで、教育環境の充実を図ることができた。
⑤	特別支援教育推進事業	340 247	亀山市教育支援委員会を年間4回開催し、特別支援学校や特別支援学級、通級指導教室など、個に応じた学びの場への就学について、就学先の決定につなげることができた。
⑤	外国人児童生徒教育支援事業	2,990 2,940	支援を必要とする児童生徒の在籍する学校に外国語通訳として9名配置し、保護者との面談において通訳業務を担った。また、通信等の翻訳業務も行った。外国人児童生徒教育支援員も6名配置し、学習支援を行った。
⑥	青少年健全育成費	4,660 4,155	青少年体験活動サマーキャンプを実施するとともに、各社会教育団体の事業のサポート及び補助金交付を行い、青少年が安全かつ心豊かに成長できる社会環境づくりを図った。
⑥	青少年総合支援センター費	14,070 13,145	補導員による下校時等のパトロールや不審者等急を要する特別パトロールについて、迅速に対応した。また各種行事では、各地域の補導委員と合同で見回りを実施した。
⑥	二十歳の集い開催費	1,008 893	新型コロナウイルス感染症対策を講じながら、令和5年1月8日に「二十歳の集い」を開催し青少年の社会人としての自立を促した。
⑥	青少年自立支援事業	4,560 4,429	支援員による地域・学校など関係機関と連携した活動により、青少年の相談や自立に向けた支援を行った。